

総合的な学習の時間
人権教育活動
「福祉学習～手話学習～」

横浜市立浜小学校



単元（題材）目標

- 自他の存在を認め、見方や考え方の違いから学び合い、よりよい生き方をつくっていくことができる子を育てる。

(1) 実施時期 3月上旬

(2) 対象（学年等・人数）

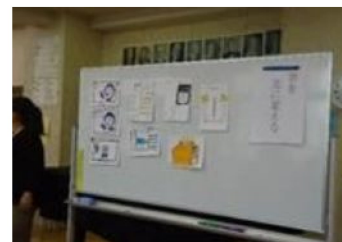
第3学年 76名

（*本校では、毎年3年生が、この学習を行っている）

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 第3学年担任 2名

外部講師 ふれあいサークル「かめ」6名、社会福祉協議会職員1名



(4) 実施内容

① 講演会「聴覚障がいについて」（学年全体）

- ・ どなたでしようクイズ～聴覚障がいの方と通訳の方が並び、どなたが聴覚障がいの方かを当てるクイズをする。
- ・ 聴覚障がいの方が日常で困ることや、周りの方々にしてもらえると嬉しいこと等の話を聞く。実際に「物を落としたとき」の場面のロールプレイを行う。
- ・ 聴覚障がいの方が日常生活で使っている生活道具の紹介をしていただく。

② 手話体験（各学級でいくつかのグループに分かれて手話を教わる）

- ・ 各学級3名ずつ（聴覚障がいの方や手話通訳の方）
- ・ 簡単なあいさつ（おはよう、こんにちは等）、学校・校長先生・自分の名前、好きなスポーツや食べ物等
- ・ 指文字による五十音の表し方
- ・ ペアで覚えた手話を披露し合う

③ 児童による歌のプレゼント

- ・ 音楽の学習で学んだ「さんぽ」の歌に手話を交えて、感謝の気持ちを込めて、披露する。「さんぽ」を披露することになった経緯は、この体験学習をすることを子どもたちに伝えた時に、1年生の時の音楽で学習した手話を交えて歌った「さんぽ」の曲を思い出し、『やってみたい!』という子どもの思いから、披露したものである。

(5) 成果〈子どもの学び〉

- 見た目では、気付きにくい障がいであることを理解することができた。
- 外部講師に話を聞き、実際に聴覚障がいの方から思いを聞くことにより、自分ができることに気付き、肩をたたいたり、口の動きがわかるようにゆっくり話したり、できそうなことをやってみようという気持ちをもつことができた。
- 手話に興味をもち、手話で簡単なあいさつや自己紹介をすることができた。

(6) その他〈子どもの感想〉

- （音や声がわからないので）呼びかけてもそのまま行ってしまう時は、とんとんと肩を叩いたり、前に回って話したりすると、うれしいということがわかりました。もし、ホームとかでそういうことがあったら、してみたいと思います。
- 自分の名前や好きなことを手話でできるようになって、うれしかったです。
- 手話を教えてもらって、楽しかったです。ほかの手話もできるようになりたいです。
- 耳の不自由な方が朝起きるときに、どのように起きるのか不思議だったので、生活道具を実際に見て、驚きました。
- 「さんぽ」を披露して、最後にみなさんと一緒に手話で歌えて、楽しかったです。